

ケータイ・ネットと子どもたちの人権

奈良県立磯城野高等学校教員 黒田恵裕

子どもにケータイを持たせる際、通話料金や長時間使用ばかりが心配されてきましたが、最近ようやく、出会い系サイトや詐欺メールなど、利用内容も心配されるようになってきました。さらには、「学校裏サイト」や「ネットいじめ」なども注目されるようになり、ケータイをめぐる子どもたちの危険な状況に関心を持つ人もようやく増えてきました。

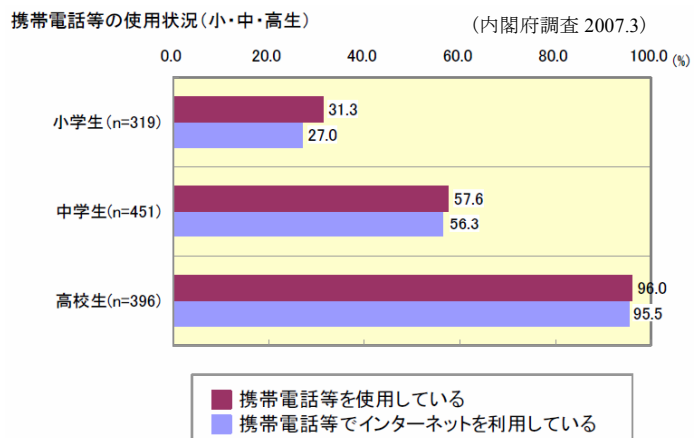
「塾帰りの安全」や「子どもを孤立させない」ために与えたはずのケータイが、子どもを危険にさらし、時には子どもの人間関係を崩してしまうことを、大人世代はもっと自覚しなければいけません。反差別のなかまづくりの手法も再検討する必要があります。

■あなたのケータイの使い方は？ 子どもの実態が見えますか？■

あなたはケータイを使っていますか？
通話とメールとどちらが多いですか？
ケータイサイト閲覧はしますか？
個人サイトは持っていますか？
ケータイサイトは持っていますか？
ネットトラブルの経験はありますか？

2007 年 3 月の内閣府調査では、小学生の 31.1 %、中学生の 57.6 %、高校生の 96.0 %がケータイを持ち、その大半がメールを使っています。多くの中高生が Web サイトを閲覧し、中学の約 2 割・高校生の約 3 割は個人サイト(ホームページ)も持っています。

また、2007 年 7 月に発表された民間調査(モバイルマーケティングデータ研究所)では、ケータイ使用者の 44 %が「ほとんど通話しない」、35 %が「3 回未満」と回答。約 8 割は「電話」として活用していないのが実態です。



(※)「携帯電話等」とは、携帯電話及びPHSをいう。

<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/jouhou5/g.pdf>

(朝日新聞 07.7.22)

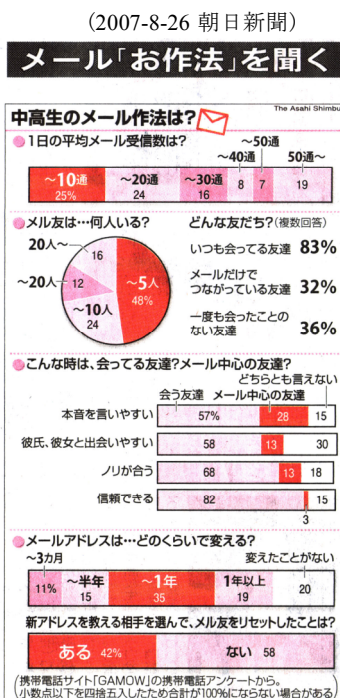


■ケータイ・ネットトラブルへの対策～基本は生身の人間関係■

子どもに関わる事件の影にケータイあり、との報道が相次いでいます。身近にも頻発するケータイがらみのトラブルに頭を悩ます保護者や教員も多いようです。ケータイがらみであるがゆえに、特別の対応が必要なのではないかと考えがちです。しかし、トラブルの防止も解決も、本来、生身の人間関係に属する問題です。ケータイ・ネットを抜きにした信頼関係の構築・維持・問題解決の力を子どもたちに育てる取り組みが基本です。その上で、ケータイ・ネットの特性をふまえた活用能力(リテラシー)を身につける必要があります。

日本青少年研究所の日米中3カ国調査(2004)や朝日新聞社の調査(2007.8)では、高校生の3人に1人が、1日4時間以上ケータイを利用しています。友だちと連絡を取り合い、その関係を維持するために頻繁にメールのやり取りをしているわけです。しかし、中高生のメール作法では、即レスが当たり前で、その時間差で友だちのシャッフル(メルアド変更の非通知)さえ行われることがあります。絵文字や顔文字の使い方一つで責め立てられることも起こります。親密のように見えて、その維持に大変な緊張を強いられる友だち関係は、互いを受けとめ向き合う関係とは言えません。また、その維持に神経を使うあまり、「その他の人々は無意味な存在」という感覚に陥る傾向も指摘されます。「互いのしんどさとは向き合わない」「他人の存在は気にとめない」「異質を排除する」という習慣が、反差別の仲間づくりを難しくしているのではないかと危惧します。

敵意も、同情を引きつけるために大げさに表現され、友だちの間をメールが飛び交ううちに、悪人が仕立て上げられてしまいます。これが、後述するホームページやＢＢＳ（電子掲示板）に持ちこまれると、「匿名によるエスカレート」が加わり、自分の悪口が延々と記されたページを見つけるか、そのアドレスが記されたメールを受けとった生徒は、顔を知る友だちたちが閲覧していることに

[illegible]

ブログ利用女子17%、料金月3万円超も

女子の「お笑い」の面白さを、人々の中傷に際する可笑しさを、表面的に面白がる可なり。また、その面白さを、表面的に面白がる可なり。また、その面白さを、表面的に面白がる可なり。

奈良市の中学生実態調査

過半数が携帯を所持
顔知らぬメル友2割

奈良市の中学の男子と女子が携帯電話を所有しており、うち約半は接続中という。これは「奈良市教育委員会」が今年度実施した調査の結果で、この結果によると、市教委の中学生を対象に初めて携帯電話の持ち主の実態調査をしたところ、この調査によると、市教委は、大の希望を受けて、携帯電話をすでに持っている文化情報科の子はいない、支払いが滞り合っている子もいない」と分析している。

生徒の文化の一部」
市教委分析

恐怖と不安をふくらませ、学校へ行けなくなるわけです。子どもたちのメール相手や個人サイトの相互訪問者が、直接知り合う友だちであることが、不信や敵意の増幅(フレーミング)という悪循環を生み出す土壌を作っています。

■サイト閲覧の落とし穴～ネット接続の実験台・日本、学校裏サイト、フィルタリング■

日本以外に、豊富なケータイ Web サイトがある国はどこでしょうか？生徒に聞くと、アメリカ・中国・韓国などといった答が返ってきます。実はそんな国はないようです。ケータイメールはあっても、ケータイからのインターネット接続はほとんどの国でできませんし、韓国のようにパソコンネットのブロードバンド普及が先行したため、ケータイネットは流行らないという国もあります。2007 年の日本のモバイル市場は 1 兆円を超える見通しで(全国の百貨店年間総売上は約 8 兆円)、諸外国にもケータイユーザーを顧客にしたいという圧力は強くありますが、各国政府は日本の二の舞にならないように苦慮しているようです。つまり、日本の青少年ケータイユーザーは世界の実験台でもあるわけです。

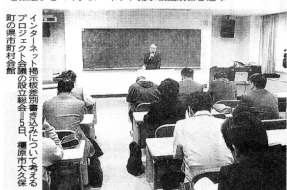
奈良県では、47 都道府県で初めて、ネット上の差別書き込み等への対策に取り組む組織として「インターネットステーション」が設立され、2002 年に活動が始まりました。

一定の成果も上げていますが、残念ながら、有害・差別的な BBS や Web サイトは無数に存在します。ケータイからのネット接続が容易な日本に住む子どもたちは、親や教員のチェックを受けずに、そうした Web サイトにも簡単にアクセスできるのです。さらに、ケータイからしかアクセスできない Web サイトも多数存在し、ケータイを使いこなせない大人の目をかいくぐる学校裏サイトその他の悪質な Web サイトに生徒や教員の実名を上げて悪口が日々書き込まれているのが実態です。

ネット上の差別許さない

行政、個人、団体、企業がスクラム

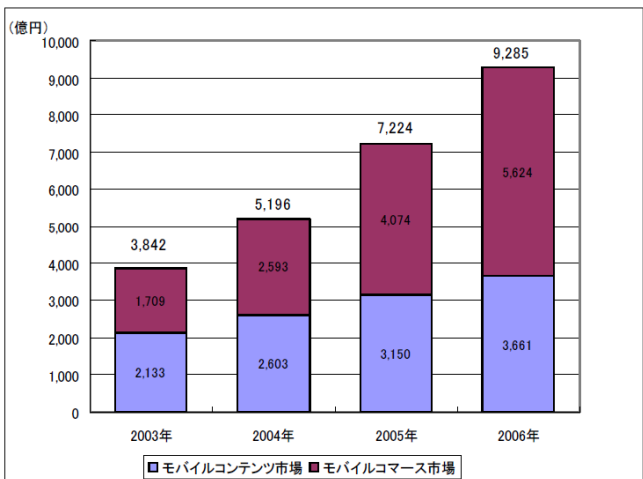
インターネット（ＩＮ）上で、差別を助長するホームページや掲示板サイトが横行している問題で、県内の人権問題に取り組む団体や行政・教育関係者、企業、個人などが一体となって差別発言を撲滅する「インターネット差別発言防止委員会」が設立された。



(2002-2-6 奈良新聞)

全県的組織が活動

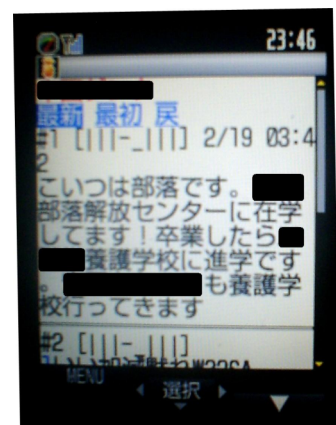
奈良県内の市町村の教育委員会に設置されている「インターネット差別発言防止委員会」は、県内全県的組織として活動している。この組織は、インターネット上で、差別を助長するホームページや掲示板サイトが横行している問題で、県内の人権問題に取り組む団体や行政・教育関係者、企業、個人などが一体となって差別発言を撲滅する「インターネット差別発言防止委員会」が設立された。



モバイル・コンテンツ・フォーラム調査

http://www.mcf.to/press/images/2007_MobileContents_market_scale.pdf

フィルタリングも万能ではありませんが、その認知度は低く、先の内閣府調査では、フィルタリングを知っている父親は 32.3 %・母親は 16.5 %にすぎず、実際にフィルタリングを使用しているのは小・中・高とも 1 %前後です。ほとんど無防備な使い方を子どもにさせているわけです。



差別書き込み

■ホムペの落とし穴～中高生ホムペの特徴と危険■

また、中学生の約 2 割・高校生の約 3 割が持っている個人サイト(ホムペ)は、パソコンやケータイで瞬時に作れるサービスを使ったものが多く、プロフィール・日記・写真・BBS・リンクなどから構成されます。プロフィールは、すでに 100 万人の中高生が持つとされるネット上の自己紹介カードのようなものですが、自ら書き込んだ個人情報から犯罪に巻き込まれたり、なりすましプロフィールによるい

じめが最近問題視されています。日記には、友だち・クラブ・バイトについてやその日の出来事・気分が書かれることが多く、写真やBBSと同様、親や教員は絶対見ないという前提のものも多く見かけます。ここに友だちへの不満や悪口が書き込まれることから、時間が解決するようなささいなトラブルもネット上では短時間で拡幅されてしま

まうことは、先に記した通りです。これが個人的な日記なら自己批判もできますが、ネット上では、閲覧者の気を引こうとする心理が働き、特定の友だちへの攻撃が強化されやすくなるようです。また、一昔前までによく見られた「授業中の手紙の回覧」だったら、悪意も少数の共有で済むのですが、リンク先には学校で毎日顔を合わせる友だちが多いことから、すぐに友だちに知れ渡り、ささいな悪意や誤解が、思わぬ迫力で敵意や恐怖を生むわけです。偏見や差別意識もこうして広がります。

■対策～ケータイリテラシー育成と自主的ルール作り■

不安な日々を過ごしている生徒は必ずいます。「どうせバレない」「たいしたことはない」と高を括っている生徒も必ずいます。生徒たちは案外ネット上では繋がっていたり、実情を見聞きしています。学校においては定期的な実態把握調査を行い、個別のケアや全体的な指導計画を立てたいものです。家庭においても、子どものケータイ利用の実態を把握するべきです。「表現の自由」や「アクセス権」は守らねばならない大切な権利ですが、「子どもの成長への責任」放棄の言い訳にははいけません。ケータイは便利で



(2007/8/11 毎日新聞)

12 ケータイメールやBBSなどの文章表現で、 気をつけている事は何ですか？

冗談は冗談らしくやわらかい言葉を使う
絵文字はなるべく明るいものを使う
自分の思っている事をちゃんと伝えるようにする
傷つけること、暴言を書かないようにする
言葉づかいに気をつける
悪口は書かない
ギャル文字は使わない
何度も読んで勘違いのないようにする 等

奈良県立片桐高等学校(統合により閉校)生徒総会 2006 プレゼンより

豊かな人間関係を創る可能性も秘めた道具ですが、誤解や悪意を拡幅し、子どもを絶望に落とし入れたり、取り返しのつかない罪を招きかねない道具でもあります。ケータイを持たせる前に、各家庭で「我が家の〇〇カ条」的なものを作る必要があります。学校においても、自主的ルール作りをさせる取り組みを進めましょう。そのためには、親や教員自身がケータイネットにある程度明るくなること

が求められます。

最後に、私は、ネット上にはびこる偏見や差別に対抗して、「ネット上の人権文化創造」を念頭に個人サイトを運営してきました。さらに、「2つのJ」と称して、「人権と情報」をテーマにさらなる実践をめざしています。紙幅の関係で、網羅的に書くことはできませんでしたが、その他の論点・資料・参考図書等を個人サイトにまとめています。ご参考になれば幸いです。

(2007/10/9・10 筆、11/18 若干加筆)

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~kurosan/JINKEN/Keitai/index.htm>